

暮眼粥

神仙粥

〔散木奔詞集九〕雜産七夜

君がよをな、ひこのかゆな、かへりいはふことばにあえざらめやは

〔新猿樂記〕七御許者、食飲愛酒女也、所好何物、鶉目之飯、暮眼之粥、

〔眠雲札記二〕神仙粥

褚人獲曰、神仙粥專治感冒風寒暑濕、頭疼骨痛、并四時疫氣、流行等症、初得兩三日、服此即解、用糯米半合、生薑五大片、河水二碗、於沙鍋內煮一二滾、次入帶鬚大葱白五七介、煮至米熟、再加米醋小半盞、入內和勻、乘熱吃粥、或只吃粥湯、即於無風處睡、以出汗爲度、此以糯米補養爲君、薑葱發散爲臣、一補一散、而又以酸醋斂之、甚有妙理、予○朝川屢用此法、屢得功驗、告之一醫生、生亦用之大奏功、嗟乎世之奔醫取法、輒失於鑿、古人謂良劑在近、不可遠求、信然、

〔續視聽草七集一〕神仙粥

糯米二三勺、生姜大ぶり五片、水二碗入て、土鍋にて煎じ二ふきほど煮たちたる時、小根をさらざる葱のしろみを六七本細に切りて入、米葱ともやはらかになりたる時、酢を小皿に四半分ほど入てかきませ、熱き内に食す、もし食しかぬる人は、湯ばかり飲てもよし、食し終らば風のあたらざる所に臥してあた、まり汗のいづるを度とす、

右神仙粥の方は、清の褚學稼が堅瓠集に出て、感冒風寒暑濕、頭疼骨痛四時、疫氣流行等にもちひて即功あり、右等の證を得たりとおもふとき、早く用ゆれば、他の醫療に及ばず、愈る事神の如し、是は糯米の補養を君とし、生姜と葱との發散の品を臣とし、一補一散のうへ酢にて收斂すれば、深き妙理ありて、尋常の發散劑と違ひ、格別の神藥なりとぞ、あり、米なきときは、うる米にても功よし、又梅干をくらしふよし、

〔宗五大草紙下〕殿中さまの事

雜載